

タイトル：『汐製菓会社の新作 107 せんべい2』

登場人物

・汐（しお）（30代、男性）－汐製菓会社社長。常に新しいアイデアを思いつき、社員を巻き込んでいく奇想天外な人物。

・塩田（しおだ）（30代、女性）－汐の秘書。真面目で心配性だが、内心では社長の発想を支えている。食べ物に対する情熱が強く、お菓子に関しては異常なほど真剣。

・外国人客（英語、中国語、フランス語、日本語）－海外市場向けに反応を見せる顧客たち。異文化交流と反応がストーリーを面白くする。

第一幕：新商品のアイデアと方向性（25分）

（汐製菓会社のオフィス。汐がホワイトボードにアイデアを書きながら、社員と塩田に語りかけている。）

汐…「うーん、うーん、次の新商品、何にしよ
うかな…」

塩田（心の中でつぶやく）…「また、面倒なこ
とを考えている…」

汐…「決まった！次は『ブルーベリー煎餅』
だ！」

塩田（驚き、目を丸くする）…「ブルーベリ
ー煎餅…ですか？」

汐…「そう、でもただのブルーベリー味じゃない
よ！生地にブルーベリーを練り込んで、さら
に外にもブルーベリージャムを塗って焼くん
だ！」

塩田…「それって…果たして煎餅の“サクサク
感”とブルーベリーの“甘酸っぱさ”が合うんで
すか？」

汐…「合うに決まってる！さ、みんな、試作に

取り掛かるぞ！」

塩田（苦笑）：「…また振り回されるんですね。」

（汐が社員に試作の指示を出し、塩田がその進行を見守る。）

第二幕：奇抜な試作と予想外の反応

（25分）

（汐と塩田が、ブルーベリー煎餅の試作に取り組んでいる。キッチンであれこれと試行錯誤しながら調整していく。）

汐：「よし、できたぞ！ブルーベリー煎餅、試作一号！」

塩田（心配しながら）：「色は綺麗ですが…ちよっと甘さが強くないですか？」

汐：「大丈夫だよ、塩気が効いているから！」

（一口食べるが、顔をしかめる。）

汐：「うーん、やっぱり甘すぎるな。もう一度、ブルーベリージャムを薄く塗り直そう！」

塩田：「そんなに何度も…」

（試作を繰り返し、やっと最適な味に仕上が
る。）

汐：「これでいけるぞ！ブルーベリーの風味が程よく、煎餅の塩味が絶妙に効いてる！」

塩田（ひとまず納得する）：「確かに…これなら食べられそうですね。」

（その後、社員が試食し、賑やかな反応が続く。）

第三幕：試食会と世界の反応（40分）

（汐製菓会社の社員、インフルエンサー、そして外国人のお客さんたちを招いて試食会が開かれる。試食しながらの食レポが展開される。）

汐：「さあ、皆さん！新作のブルーベリー煎餅をお試しください！これが次のヒット商品だ！」

（社員が一斉に試食を始める。）

社員A（目を見開いて）：「おお、見た目もカラフルで、美味しそう！さっそく食べてみるよ……」

（一口食べる。）

社員B：「あつ、ブルーベリーの香りがふわっと広がる！そして煎餅の塩気と甘さが絶妙にバランスが取れてる！こんな煎餅、今まで食べたことない！」

社員C（驚きながら）：「これ、結構クセになる！煎餅ってどうしても塩っぱくてしょっぱいイメージだったけど、ブルーベリーと合わせると意外と甘さが引き立つね。」

社員の：「うん、外のブルーベリージャムの部分がほんのり甘くて、後味がさっぱりしてるから、何枚でもいける！」

（次に外国人の反応が続く。最初は不評が続く。）

アメリカ人客（顔をしかめながら）：「これ…
煎餅にブルーベリーって、ちよつと違う気がするな。甘いし、しょっぱいし、何かバランスが悪い気がする。」

フランス人客（眉をひそめて）：「ブルーベリーと煎餅の組み合わせ…うーん、どうしても日本の伝統を壊しているような感じがするわ。」

中国人客（戸惑いながら）：「これは…ちよつと新しすぎて、まだ馴染めないかな。」

塩田（心の中でため息）：「やっぱり、最初はそう思うかも…。でも、社長が言う通り、最終的に絶対わかってくれるはず。」

（その後、汐が説明を始める。）

汐：「みんな、ちょっと待って！これがただの『ブルーベリー煎餅』じゃないんだよ。」

（汐が熱心に語りかける。）

汐：「ブルーベリーと煎餅、この不思議な組み合わせが日本の『大和魂』と融合したんだ！ブルーベリーの甘酸っぱさが、日本の食文化における『塩』と『米』の神聖さと対比を生み出しているんだよ！日本の伝統と新しい風味が融合した新しいスナック、これこそが本物の『和』だ！」

塩田（心の中で）：「社長、またか…。でも、もしかしたら…」

（汐の言葉に、外国人客たちが次第に考え込み始める。）

アメリカ人客（考えながら）：「…なるほど、君が言ってることがわかったよ。伝統と新しさの融合、確かにその考え方が面白い！」

フランス人客（目を輝かせながら）：「ああ、そ

うか！『和』と『洋』がうまく交じり合っているんだね。ブルーベリーの酸味と煎餅の塩気、これが新しい日本の食文化を表しているのか。」

中国人客（につこりと）：「原来如此（なるほど、そういうことですね）！日本の文化を感じられる、新しいスナックだ！」

汐（得意げに）：「そうだろう！これが『ブルーベリーと大和魂の融合』だ！」

（他の社員たちも納得し、ブルーベリー煎餅の魅力に気づき始める。）

第四幕…世界中でバズりまくる！海外でも大ヒット！（30分）

（ブルーベリー煎餅が発売されて数ヶ月後、世界中で急速に人気を広がり、海外でも大ヒットしていく。）

塩田（興奮して報告）：「社長！ブルーベリー
煎餅、アメリカ、フランス、中国、ドイツ、スぺ
イン、ブラジル：もう全世界で売れまくってい
ます！」

汐（満足げに）：「はは！やっぱり、ブルーベリ
ーと大和魂は合うんだよ！」

塩田（感慨深く）：「あの時、あんなに反対し
ていた外国人客たちが、今では…」

汐：「いやあ、発明の喜びはやっぱり格別だ
ね。次は何を仕掛けようか…？」

（次々と外国語の食レポが紹介され、海外で
も大人気に。）

アメリカのインフルエンサー（インスタ映えする
写真を撮りながら）：「日本の伝統と新しい
風味、ブルーベリー煎餅、最高！」

フランスのブロガー（感動して）：「ブルーベリ
ーと煎餅、この意外な組み合わせがすごい！
これは絶対に日本に行ったら試したいスナッ
ク！」

中国の YouTuber (笑顔で) : 「煎餅和蓝莓的结合，真的是非常新奇又好吃！（ブルーベリーと煎餅の組み合わせ、本当に新しくて美味しー！）」

（世界中でブルーベリー煎餅がバズり、メディアや SNS で取り上げられる。）

ヒント